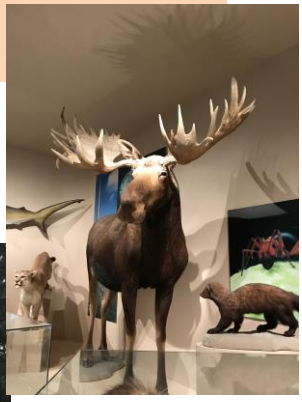
Front Range Community Collage

出羽庄内国際村

英語教育を学ぶコロラドスタディツアー2017

2017年8月4日～8月15日



（公財）出羽庄内国際交流財団

目　　次

子どもの英語教育を学ぶコロラドスタディツアー

■ ツアーの概要／ツアー期間／アメリカ・コロラド州について　・・・・・　2

■ スタディツアー　日程表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

■ 参加者による報告

八渡　葵衣さん　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

殿塚　由美さん　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　14

齋藤　佳さん　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　36

■ ツアー参加者名簿・同行者より　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　59

子どもの英語教育を学ぶスタディツアー

ツアーの概要

出羽庄内国際交流財団では、2007 年より山形県と姉妹県州となっているアメリカ合衆国コロラド州でのコロラドスタディツアーを実施してきました。中学・高校生の参加者を中心としてツアーを重ねてきましたが、英語を母語とする国での語学研修や、アメリカならではの先進的な英語教育に触れる機会が多く、日本での子どもに対する英語教育に活かせるものが多く得られるのではないかと、2014 年より本事業を開始しました。

今年で 4 回目となる今回のプログラムでは、全泊ホームステイをしながら、現地のコミュニティカレッジに 3 日間の特別プログラムを準備していただき、専門的な英語指導の現場を見学、教師とのディスカッションなどを行いました。また現地の高校や保育園を訪問したり、「サマーキャンプ」と言われる夏季休暇を利用した子どもの様々な活動を見学、交流なども行いました。

ツアー期間

2017 年 8 月 4 日～8 月 15 日　　12 日間

アメリカ合衆国　コロラド州について

・面積　：　26 万 9618 ㎢　（日本の 4 分の 3）
・人口　：　約 5,356,000 人　（2014 年）
・州都　：　デンバー市
・気候　：　山岳、高原、砂漠と様々な地形があり、気候も複雑なものになっている。
・日本との関係：

1886 年に松平忠厚が日本人として初めてコロラドの地を踏んで以来、日本人移民がデンバーにも入るようになり、炭鉱夫、鉄道工夫として出稼ぎにきた日本人がかなり居住していた。第二次世界大戦当時、西海岸に住む日系人 12 万人が内陸部に強制移住させられたが、当時のコロラド州知事ラルフ・カー氏は、迫害された日系人を温かく迎え入れた。現在山形県とコロラド州は姉妹県となっている。

コロラド州在住日系人　約 19,000 人
在留邦人　　約 4,186 人（2014 年 10 月）

スタディツアー　日程表

・期間　2017 年 8 月 4 日（金）～8 月 15 日（火）　12 日間

・日程

月　日	時　間	訪問先など	内　容　など
8／4	17:10	成田空港→ コロラド・デンバー	日本から直行便で移動　現地時間 4 日 12:45 着
8／5	終日	ホストファミリーデー	
8／6	午前	日系人会主催ピクニック参加	200 人分の芋煮を作りふるまう。花笠踊りを披露
	午後	ホストファミリーと過ごす	
8／7	午前	Front Range Community College で英語指導の研修	話す活動、グループ活動に注目下授業参観、教師とのディスカッション
	午後	デンバー子ども博物館視察	
8／8	午前	地元公立高校を視察	一般ツアーグループと合同
	午後	ボルダー市見学	仏教寺院などを見学　一般ツアーグループと合同
8／9	午前	Front Range Community College で英語指導についての研修	単語指導、レベル混合クラスの指導について授業見学、教師とのディスカッション
	午後	縫い物サマーキャンプを見学、交流	子どもたちの活動に参加、書道などで交流
8／10	午前	地元保育園を視察	
	午後	・デンバー市内見学 ・ユースインアクショングループとの交流会	一般ツアーグループと合同
8／11	午前	Front Range Community College で英語指導についての研修	文法、教師の発話、間違いの指導等について授業見学、教師とのディスカッション
	午後	デンバー自然科学博物館見学	
8／12、13	終日	ホストファミリーデー	
8／14 15	12:35 発 21:20 着	デンバー→成田 羽田→庄内	最終便で鶴岡着

Study tour in Colorado

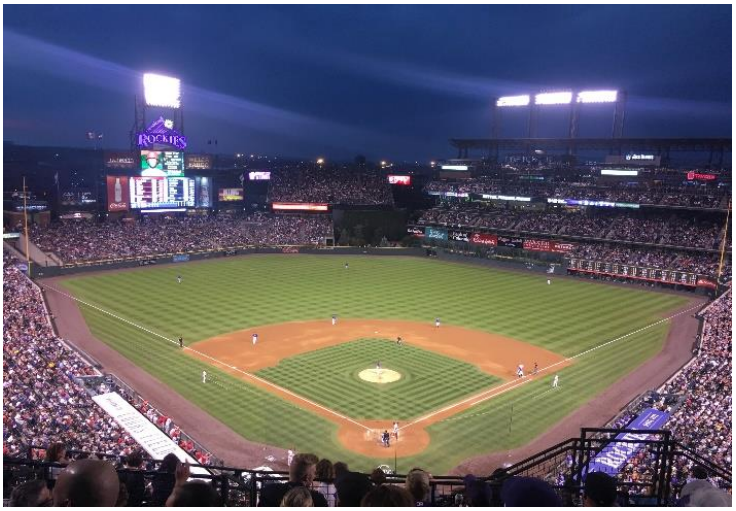
2017.8.4-8.15 Aoi Yawatari

〈ツアーの様子〉

8月4日（金）1日目

デンバー国際空港にお昼頃に到着し、ジョアンの車に乗って 1 軒目のホームステイ先ウィルソン家へ。ウィルソン家の長女ステラとお母さんはその頃日本にいたため、お父さんと下の子マーゴ（11 歳）がお迎えしてくれた。ステラは鶴岡東高校に来年の５月までいるらしい、、、お母さんとステラとはビデオ通話ができたのでよかった。

←ステラの部屋に貼ってあった習字の作品。「QK」が面白くて思わず写真を撮ってしまった（笑）
下の作品は、難しい漢字で私も読めません、、



夜はさっそくコロラドロッキーズの試合を見にスタジアムへ。幸さんと幸さんのホームステイ先のグレッグのお父さんとお兄さんも一緒に観戦した。試合の途中途中でいちいち細かい芸があってなかなか試合が進まなかった（笑）
人の数、スタジアムの大きさ、ホットドックの大きさ、容赦ないヤジの量、アイスの甘さ、すべてにアメリカを感じた！！！

完全なるジェットラグのせいで眠くて眠くて仕方なかった。グレッグのお兄さんに「あなた大丈夫？」と心配された。

8月5日（土）2日目

午前中からお昼までマーゴの水泳の大会を見に行った。マーゴはその日が初レース！見事1位でゴールしていたし、タイムも縮めたみたい。マーゴお疲れ様！！→

←ちょっと遅めのランチは、私のリクエストでハードロックカフェ。とても大きなハンバーガーと量の多いポテト、一人で完食しました～。お土産も買えて良かったです。

↑大きなスーパー（？）なんでも売っている所でコロラドの旗のデザイン T シャツを父に。マーゴはレジまでカートの中に入って、お父さんから押してもらっていた。さすがアメリカ。

↑デンバー一人気のアイスクリームを食べた。長い行列だった。量が多くて半分で飽きたけどおいしかった～。

8月6日（日）3日目

日系人会のピクニック！朝から芋煮作って配って、花笠踊って、太鼓たたいて、即興でボランティアして、、、とても楽しかった～！タカさん面白かった。芋煮は味付けに苦戦したが、おいしいって言ってもらえてうれしかった。花笠もうまく踊れたと思う！！→

←ウィルソン家とはこの日でお別れ。
もともと泊まる予定ではなかったけど、マーゴとお父さんと過ごせて本当に良かった。
二日間お世話になりました。
マーゴ、今度鶴岡に来るの、楽しみに待っているよ！！

2軒目のホームステイ先コーニッシュ家。
お父さんのベン、お母さんのクリッシー、エスター（15）、ワイリー（12）の四人家族。
「私たちも今までキャンプに行っていて家空けていたのよ～」と言っていた（笑）
お庭が広く野菜を育てていた。BBQ用のグリルでベンが料理をしていた。→

夕ご飯でお米が出てびっくり！野菜もたくさん食べられてよかった。今どきはアメリカ人もヘルシー思考みたい。とてもおいしかった。それでもやっぱり食後にアイスを食べに行った。寒かった、、。

8月7日（月）4日目

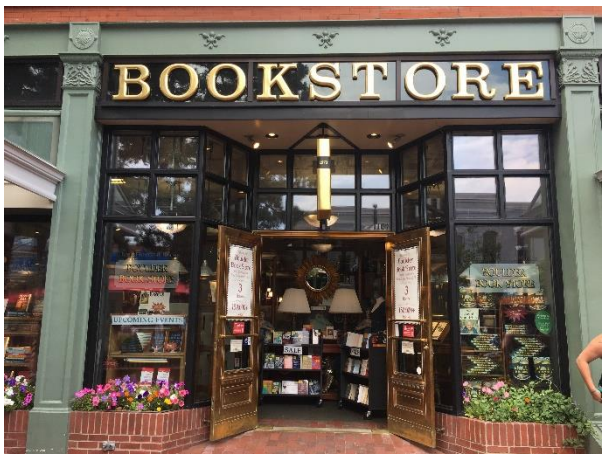
午前中は ELS に行き、午後は子供ミュージアムに行った。
夕方はベンの仕事場へ。テレビ映像の編集をしている様子を実際に見せてくれた。家のような居心地の良いオフィスだった。ワイリーも通い慣れている感じだった。→

夜ご飯はクレイジーメキシコ料理屋さんに行った。中に入るまで約 1 時間並んだ。まるでテーマパークのようで、小規模なお化け屋敷やゲームセンター、お土産屋さんなどがあった。15 分に 1 回、人が水の中に飛び込むパフォーマンスをしていたがさすがにちょっと引いた（笑）メキシコ料理は辛くてあまり得意ではないことが分かった。←↓

8月8日（火）5日目

タカさんのグループと一緒の日。みんなと一緒にいれて楽しかったなあ。
午前中はマーゴやお姉さんが通っている国際系の中高一貫校「DCIS」に行った。生徒会役員の生徒さんたちが案内してくれたが、大人っぽくてとても同い年とは思えなかった。

午後はボルダー市。
最初にお金持ちの人が通うボルダーにある大学でサックランチを食べ、写真撮影。由美さんのホームステイ先であるマットも通う予定であるらしい。
タカさんがおすすめのお寺にも行った。
その後買い物をして、お土産をたくさん購入できた。値段が少し高め～。



8 月 9 日（水）6 日目

午前中は ELS 二日目。
午後はジョアンが主催しているサマーキャンプへ。子供たちの名前を一人ずつに習字で書いた。習字習っていたのが役に立ってよかった！

夕食は手作りのタコス。自分で食べたい分だけ取っていくスタイルで助かった。おいしかった！
夕食後に私の両親とビデオ通話して挨拶してもらった。「お母さんに似ているね！」と言われた。グーグルアースで自分の家も紹介した。

8 月 10 日（木）7 日目

午前中はプレスクールに行った。5 人の 3 歳児のクラスに入れてもらい、まるでインターンシップのようだった。天使のように可愛くて癒された～。→

夕方はユースインアクションの生徒たちと交流した。一人ずつペアになって話し、ゲームをして、合唱もした。仲良くなれてよかった。↑

相変わらずおしゃれなディナー。この日もベンが腕を振るってくれた。この種のパスタ初めて食べたけどおいしかった。→

8 月 11 日（金）8 日目

午前中は ELS 最終日。
午後は大きな科学館に行った。一日中いたとしても周り切れなそうなくらいの大きさだった。プラネタリウム見られてよかった。

夕食はボーリングなどの遊び場所があり、どこの席に座ってもコロラドロッキーズの生中継が見られる大きなレストラン兼バーだった。これぞアメリカ！というような食事だった。おいしかった。ワイリーとベンと遊んで、記念にプリクラを 4 人で撮った。

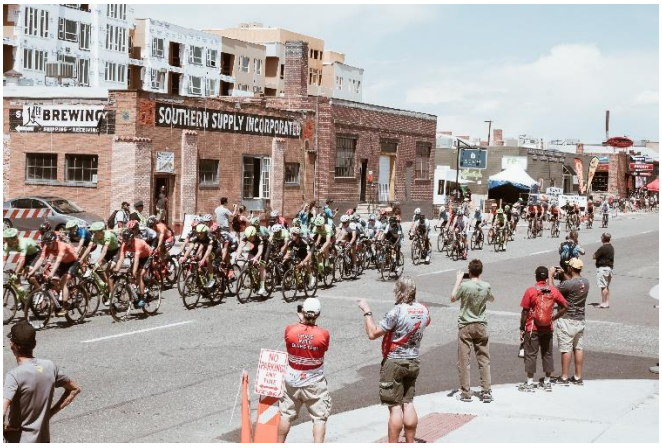
8 月 12 日（土）9 日目

最後の 2 日間はホストファミリーデー。
午前中はホストマザーとエスターと 3 人でキャッスルロックのアウトレットに行き、私の買い物に付き合ってくれた。日本のアウトレットの 2 倍くらいの大きさで、ショップも充実していて満足する買い物ができた。

夕方からはブロックごとのパーティーに参加した。家の前の道路を完全に封鎖させて自由にお互いの家に出入りしていて、さすがアメリカ、これぞパーティー！と思った。30、40 家族くらいに対して、日本人 1 人なのが初めてで、少し不安だった、、。でもエスターの幼馴染で現役高校生 10 人くらいのグループに入れてもらい、一緒に楽しい時間を過ごせた。アメリカの高校生は大人びていてとても年下には思えなかった。夜にみんなの母校の小学校に行って遊具で遊んだ。勝手にグラウンドに入れるあたり、さすがアメリカ（笑）フリーダム！！

8 月 13 日（日）10 日目

コロラド最終日。午前中からずっと自転車レースを見に行った。とにかく暑くて日差しが強くて、最終日にしてやっとコロラドっぽい天気だった。自転車レースは日本のマラソンや駅伝のイメージで、選手たちは道路を 8 週していた。



その後は、スニーカーを見たいという私の希望で靴屋さんに行った。1 足買うと 2 足目が半額で買えるキャンペーンをやっていたので、ランニングシューズとスニーカーを買った。満足満足。

ラストディナーは大きなステーキ！庭にある BBQ 用のグリルでベンが肉を焼いてくれた。アメリカっぽくてとてもおいしかった！
トウモロコシ 1 人 1 本食べていてすごかった、、、ちなみにトウモロコシは日本のほうがおいしい食べ方をしています（笑）。

食後に私の両親と 2 回目のビデオ通話をした。ワイリーが来年鶴岡に来ることを、家族みんなで楽しみにしているよ！
お土産にあげた水ようかんを食べてくれたが、マンゴーが一番気に入ったみたい。小豆と抹茶は繊細な味だったから、おいしさが伝わりにくかったのかも～。

〈参加の動機〉

私が今回、このツアーに参加しようと思った理由は二つあります。

一つ目は、高校二年生の今の時期に、何度か訪れたことのあるアメリカに家族なしで訪れ、自分の英語力がどの程度なのか知りたいと思ったからです。また、ホームステイをして、アメリカ人の生活の様子を生で感じてみたいという思いもありました。

二つ目は、将来何らかの形で英語にかかわる職に就きたいと思っているので、実際に英語圏に行き、アメリカ人と話し、コミュニケーションのスキルを上げたいと思ったからです。

一般ツアーに参加せず、教員向けのツアーに参加した理由は、子供に英語をどうやって教えるか、日本の先生は今何を課題と思っているのか、知り学び、自分の将来に活かしたいと思ったからです。またよりレベルの高い英語に触れられ、自分で英語を使ってしゃべる機会も多いだろうと思い、参加を決意しました。

〈最後に〉

アメリカで過ごした日々はあっという間で、毎日が内容の濃いものでした。特に三日間通った語学学校は、自分にとってとても役に立ったものであったと感じます。英語の授業を見学して、その内容について英語で聞いて、英語で自分の考えを述べなければいけなかったので、まるで大学の授業を受けている気分でした。先生は私が高校生だということは全く関係なしに容赦なく難しい質問をしてくるので、十分な力がついていない私にとっては結構大変でした。でもたどたどしい私の英語を、幸さんや佳さん、由美さんがサポートしてくださり、何とかついていくことができました。英語で自分の意見を伝えるのはまだまだ難しいことがわかりました。自分にとって良い経験になったと心の底から思います。

いろいろな事情で今回 2 軒のお家にお世話になりました。同時に 2 つのご家庭にお邪魔できて私はとても幸せ者だったと思います。どちらのお家も最高のおもてなしをしてくれ、アメリカでの生活をとても充実させてくれました。感謝です。将来もう一度コロラドを訪れて必ず再会したいと思います。ウィルソン家、コーニッシュ家ありがとう！！！！ウィリーとマーゴが鶴岡に来ることを楽しみに待っているよ！

最後に、応募するにあたって何度も相談に乗ってくれ、快く私の希望に応えて下さった幸さん、高校生で未熟な私をいろんな場面でサポートし、たくさんのことを教えてくれた佳さん、由美さん、本当にありがとうございました。みなさんから学んだことはたくさんあります。忘れずに自分の将来に活かします。勇気を出して先生方向けのツアーに参加して本当に良かったと思います。

出会った人、お世話になった人みんなに感謝しています。最高の経験をありがとうございました！

子どもの英語教育を学ぶスタディツアー2017

August 4 ~ August 15

殿塚　由美

はじめに

子ども達に英語を教える仕事をしていますが、自分自身は海外へ行く機会もなく時々閉塞した思いを感じることがあります。そんな時に目に入ったのが国際村のツアーの記事。行きたい、何としても行きたい。でも、主婦が二週間も家をあけて？乗り物酔いもするし、腰痛もあるし、若くないし、みんなについていけるだろうか。さまざまな不安がよぎりました。でも行きたい！今、行かないといけないかも！そんな思いに駆られて参加を決めました。

ここでは、フロントレンジ コミュニティカレッジの語学学校の ESL クラスについて、教育ツアーのみの見学場所について、ホストファミリーとの過ごし方について報告したいと思います。

プロのレーサーが練習する山道

コミュニティカレッジってなんだろ？

コミュニティカレッジとは、アメリカの公立の二年制大学のことです。全米の大学数、約4000校の内、約3割にあたる1200校ほどがこのコミュニティカレッジになります。その地域の人にできるだけ安価で大学教育と職業訓練を提供するのがコミュニティカレッジのおもな役割です。成人教育や生涯教育にも、力を入れています。コミュニティカレッジの特徴は、なんといっても学費が安いこと四年制大学に比べて半額か、さらに安いくらいです。アメリカでは、ここ数年四年制大学の学費が、どんどん高くなっています。レベルの高い大学ほど学費が高くなる傾向があります。そのためコミュニティカレッジで2年学び、それから四年制大学に進学して2年後に卒業する学生が増えています。

＊コミュニティカレッジデータベースより

① ELS Language Centers In Denver, Colorado

ESL クラス見学

フロントレンジ コミュニティカレッジに併設する ELS Language Centers In Denver の ESL クラス(English as a Second Language 母語でない人にとって第二言語としての英語のコース)の授業参観をしました。生徒は、中国、台湾、日本、コロンビア、サウジアラビア、ラオス、ユーゴスラビアなど、年代は若者が多いものの１０代から６０代まで幅広く、コースは能力別に１２段階に分かれており一期は四週間、一期だけ受ける生徒もいれば、コミュニティカレッジ入学前に受ける生徒などさまざまです。クラスの人数は、４人だったり、９人だったり、最高でも１５人までだそうです。

授業風景

授業見学

８月７日　月曜日

・9:30～10:20　　校内見学、自己紹介

・10:30~11:20　　キャサリン先生の授業を参観　(中級)

・11:30~12:20　　キャサリン先生と授業について話し合い

・　一行４人を係りの方が案内、ガラス張りの小さな教室がいくつか並んでいる場所あり。一人で勉強している学生もいれば、３，４人で話し合っている学生、講義をしている教室もあり。夏休みで閉鎖中でしたが、レストランもあり、広いカフェ、校庭､行くたびに立ち寄った売店など､これらの施設は ESL クラスの生徒も利用可能。

本日の課題 “How have shopping habits changed over the last few generation?”
最初にパソコンで最近の買い物の傾向についてグラフを示す。generation について意味を確認したり、買い物という言葉から衝動買い、広告、インターネットショッピングなどの言葉が出てきて、一つ一つ確認。depression については、反意語 happy を使って説明。この時生徒は教師の方を向いている。次に課題についてペアで話し合いをする。生徒は４人、同じ国出身のペアにすると母国語で話してしまうので時々ペアをかえる。ある程度の時間がたつと、もう少し時間が必要かどうか改めて聞く。話し合いの時間には音楽をながしている。この時、生徒は向き合っている。最後に授業について、教室の数か所に質問を書いた紙を貼り、ペアで話し合い答えをだしていく。この時生徒は、教室を歩き回る。

キャサリン先生は、レッスンを通して笑顔、声も大きく、はっきりしている。ジェスチャーもあり思わず惹きつけられる。グループ活動をとても大切にしている。それは、先生の前で発表する前の練習にもなるし、どうしても英語で話し合わなければならない状態にすることで、学習者の会話体験を増やす意図があるとのこと。50 分の授業だが、最初は正面、次に生徒同士向き合う、最後に教室を歩き回るという動きがあり、生徒もみている私たちも集中していられた。

校内のポスター

８月９日　水曜日

- 9:30~10:20　　ウェイド先生の授業を参観　(中級と上級の合同クラス)
- 10:30~11:20　　ウェイド先生と授業について話し合い
- 11:30~12:20　　ウェイド先生と話し合い

・課題は、“How to start a business”ビジネスについて話し合った後、自分がピザ屋を開くとすればどんなものにどのくらいのお金が必要か具体的な数字を出すこと。クラスの人数は中級、上級あわせて１３人。すぐに課題を理解し、携帯を使ってどんどん作業をすすめる生徒もいるが、中には、時々手が止まってしまう生徒もいる。すると、ウェイド先生がさりげなく質問したり、アドバイスを与える。生徒は、ひとりひとり携帯を使用して必要な情報を得たり計算をしていく。
・お店を開くのに必要な具体的コストという身近な課題で興味をひきつけ、携帯を使うことでひとりひとり集中できる

授業後にウェイド先生と話し合い

８月１１日　金曜日

- 9:30~10:20　　校長先生との話し合い
- 10:20～11:20　　ローガン先生の授業を参観(初級)
- 11:30～12:20　　ローガン先生と授業について話し合い
- 学校のディレクターのカービィ先生と日本とアメリカの学校の違いについて話合う

・不定詞と動名詞について

生徒は５人、ほかのクラスよりやや年齢層が高い。文法は前回学習済み、今回は、ひとりの生徒が与えられた語でジェスチャーをし、ほかの生徒がそれを見て不定詞または動名詞で文を作る。話し合うために大きい声をだすことにも、ジェスチャーをすることにもハードルが高いと感じている生徒もいて、なかなか伝わらない。それでも、見ている４人が何とか理解しようと言葉を発し、近い言葉が出ると、ローガン先生がヒントを与える。

普段は教師は、あまり話さず見守る程度、生徒は、他の生徒を何とか理解しようとし、自分たちで間違いを直しながら協力して文を作っていく。見ていて自分も一緒になって文を考えようとしていた。若者もいるし６０代の方もいるとのこと、男性も女性もおり出身もさまざまでとても楽しい授業だった。最後に携帯を使ってゲームをする。不定詞か動名詞かどちらでも良いのか選ぶゲームで選んだ結果がすぐに目の前のスクリーンに出る。

ローガン先生が授業の参考にしているホームページ、先生自身のページも教えてもらう。

・ESL クラス見学を終えて

普段子どもたちに英語を教えていますが、他の先生のレッスンを見る機会がありません。これでいいのか、もっと他にいい方法はないのか、このやりかたが目の前の生徒にあっているのかは、常に感じる疑問です。そうした意味では、他の先生の授業を見せていただきとてもよい刺激となりました。

フロントレンジコミュニティカレッジ

②教育ツアーのみの見学場所

Children's Museum

８月７日月曜日の午後は Children's　Museum にいきました。本当は、子どもがいないと入れないのですが、特別に入れてもらいました。夏休み中の雨の日ということで、とても混んでいました。入口に着くまでに看板があったり、大きな石があったり、道が曲がっていたりと入る前からわくわくさせられます。入るとすぐに天井までの階段が大きな木を登るような構造になっていて、登ってみたい！と子どもでなくとも思いました。残念ながら子どもしか登れませんが。

ある部屋では料理を、別の部屋では絵を描いていたり、工作をしていたり。消防士の制服を着て消防車に乗る体験や獣医さんになれるブースがあったり、ありやてんとう虫のコスチュームに着替え、あたりが全て大きく見える虫の世界があったり、赤ちゃんがはいはいするための部屋があったり、１日いても飽きないところです。科学の階では、泡の実験をしている子、バケツに水がいっぱいになるとロケットが飛ぶ仕組みに喜び何度も繰り返す子、ジャンプ力でスポンジがはじけるゲームがあったり、惑星をかたどった輪に紙飛行機を投げ入れたり、どの子も楽しそう。泡とこんな出会いをしていたら、料理は遊びと子どものころに思っていたら、せめて自分の子どもが小さいときにこんなところに連れてきたかった。そんな風に思わせる場所でした。

虫の世界

JoAnne's Summer Camp

８月９日水曜日の午後は、ツアーのコロラド側コーディネーター、ジョアンさんのお裁縫のサマーキャンプに参加しました。小学校の低学年や中学年の子どもたちが小さな体育館くらいの場所で好きなところにすわり、好きなものを作ります。小さなクッションだったりビーズのブレスレットだったり、布や針、糸が置いてある机の上からなんでも好きなものを取り出して自由につくるスタイルです。私もやってみましたが、作り始めるとわくわくしてやめられません。立って縫おうが、座ろうが、刺繍糸だろうがフェルトだろうが、使い放題。隣に座った女の子は、２０センチ四方ほどの枕を作っていましたが、途中で糸が絡まりジョアンさんに助けを求めたところ、「問題ない」と言われ、そのまま縫い続けていました。裏返してしまえば、見えないから全く問題ないです。何と楽しいこと、まっすぐ縫わなくてはとか、縫い目を揃えてとか誰も言わないし、自由なその雰囲気がたまらなく心地よいキャンプでした。習字をやりたいとのことで、持って行った筆で子どもたちの名前を漢字に当てはめて書きました。

作品の枕と名前を持ってにっこり

エプロンシアター

ビーズでブレスレットを作る

Preschool　保育園

８月１０日木曜日の午前中、１１人の子どもたちと過ごしました。１１人の子どもに２人の先生、登園したら自由に遊びます。しばらくするとみんなで丸くなって歌を歌ったり手遊びをしたり、ゲストが来てくれて一緒に遊んだりします。そのあと日本語で「３匹のこぶた」のエプロンシアターをしたのですが，ものすごい集中力にこちらがびっくり。

おやつを食べたら手を洗って、お昼寝の準備もしてから散歩にいきます。私たちはここまでの参加でしたが、近所の公園で遊んで帰ってきたらお弁当を食べてお昼寝となるようです。

初めはおっかなびっくりだった子どもたちも慣れてくると“Mom”と呼びかけて、本読みをせがんだり、お昼寝の準備を手伝ってと言ったり。あんまりかわいいので、写真を撮ってもいい？と聞くとどの子もポーズをきめてくれました。

Shopping

お昼は、ジョアンさんがネイティブアメリカン料理の店に連れて行ってくれました。Fry bread という揚げパンの中にバイソンのお肉が入ったピロシキのようなものを食べました。豆と辛い味があまり得意ではないので、豆もソースもなしで頼んだらさっぱりして美味しかった。そのあと４時まで買い物を楽しみました。土産物屋でコロラドらしいものをと思い、コロラド州旗の柄のマグネットと野球のコロラドロッキーズのユニフォームを着た小さな熊の人形を買いました。

Fry bread　中にバイソンのお肉が入っています。

コロラドロッキーズのユニフォームを着ています。

③コロラド、デンバーにて

８月４日

国際線は、３０年ぶりくらい。ちょっとどきどきします。席は、３人並びの真ん中、両隣はかなり大柄な男性、でも、いい感じです。トイレに立とうとすると、すぐに席を立ってもたもたしている私を立ったまま待っていてくれるし、乗務員が飲み物などを持ってくると、私を先にといってくれます。当たり前なのでしょうけどちょっと感動です。

１０時間ほどでデンバーへ着きました。場合によっては、１４、５時間かかるかもと言われていたし、コーディネーターのタカさんのご厚意で席がエコノミープラス席だったこともあり思ったより短く感じました。

デンバーへ着くとホストファミリーのマットが迎えにきてくれました。並んでいる車にも道路にも、かなり近いよ、と言ってから１５分、にもスケールの大きさを感じました。マットの家は素敵な二階建て、私用の部屋は、大きなタペストリーがおしゃれな部屋です。普段は別の州の大学に通う息子さんのクリスの部屋だそうです。隣は、専用のバスルーム、感激です。家具やキッチンのしつらえが全て高くて動きが楽。家が広々として、あちらこちらに素敵な絵が描けてあって本当にすてきな家です。窓から見る景色は、壮大で「大草原の小さな家」のローラが駆け下りてきそう、と思っていたら、バッファローがいるそうです。

８月５日　土曜日

朝はゆっくり起きてメキシコ風の朝食、スクランブルエッグ、豆のソースとトルティーヤ、ドレッシングは、激辛、辛い、普通と３種類あって激辛を少しだけかけてみました。かなり辛かったけれどおいしかった。そのあとバイソン保護区にいきました。野生のバイソンが見られるとのことで、スティーブとリサ、マットと私の車２台で出かけました。残念ながらこの日はバイソンには会えませんでした。ちょっと小高いところへ行くと頭痛がするのには、参りました。下るとすぐに治りましたけど。

スティーブとリサは、Biking を楽しみ、私はマットにキング・スーパーというスーパーマーケットに連れて行ってもらいました。以前マットがアルバイトをしていたお店だそうです。できるだけかさ張らないものを買おうと思っても物珍しくてあれこれ買ってしまいました。午後はモールに連れて行ってもらいました。お店がたくさんあってとても賑やかです。サイズも豊富でまとめて買っていきたい！

Biking が趣味のスティーブとリサ

５時過ぎにマットの従妹のティータムの家にいきました、彼女の１３歳の誕生会だそうです。友達が１０人ほど集まっていました。ピザとスナック菓子のパーティでしたが、それだけで大騒ぎの彼女ら。

私たちがあちこち出かけている間にリサが自転車で転びケガをしてしまったそうです。肩についたバッタを払おうとして自転車から落ちて鎖骨骨折だそうです。月曜日に外科にいって本格的に治療するそうです。

自宅から近所の公園に向かってお父さんが水風船をとばします。歓声をあげながら受け取る子どもたち。

デンバーは、とても過ごしやすいです。暑いことは暑いけど、湿気がないのでとてもさわやかです。夜、窓を開けて寝るととてもさわやかだよ、と言われました。さすがコロラド。

８月６日　日曜日

コロラド日系人会で芋煮を作りました。みそという言葉の響きがいいのかどちらかといえば醤油味よりみそ味が人気でした。学生時代，醤油は soy sauce で通じたけれど、みそは知名度が低く bean paste と言ってもなかなか通じなかったけれど。みそってすごい！人がたくさん出ていてとても賑やかでした。

２時頃帰宅して一休みしてから、マットがミリタリーショップへ連れていってくれました。ミリタリーショップと言っても普通の洋服も売っている、サイズの豊富なお店です。ハロウィンパーティで使えそうな帽子を買いました。

夜はレストランへ、とにかく何でも大きくて量も多くて、これでもか！って感じでとても食べきれません。

リサは少しだけ下に降りてきてみんなと話しましたが、痛みが強いらしくすぐ寝室へ戻りました。友人の Bob 夫妻がお見舞いにきました。娘が二人いてチアリーダーだそうです。

一階のリビング、テーブルとナバホ族の伝統模様のタペストリーがおしゃれです。

全てが高くて動きやすいキッチン

８月７日　月曜日

Children's Museum を見た後、リクエストに応えて急きょマットがみんなをスーパーに連れて行ってくれました。２０分くらいでしたが、買い物を楽しみました。寿司の試食があるというので食べてみましたが、日本のお寿司ではなく、超スパイシーな一口サイズお好み焼きのようなイメージです。

８月８日　火曜日

午後は車で１時間ほどのボルダーという街へ学生グループと一緒にいきました。コロラド大学ボルダー校という州立大学があります。宇宙飛行士や著名人を輩出している有名大学で、学生数２万人、職員数１万人、人口わずか１０万人の街で大学関係者が３割を占める高級住宅地だそうです。住みたいけど高くて住めない憧れの街。大学そのものもが授業料が高くアパート代なども高額のため行きたくともなかなか行けないようです。その大学に来学期からマットが三年生に編入します。コミュニティカレッジを２年で卒業し地元の大学３年に編入という人気のコースです。アパートは、お友達とシェアするそうです。

ベトナム料理のお店でサンドイッチを買って近くの公園で食べました。そのあと、ボルダーの街をタカさんが案内してくれました。仏教寺院にもお邪魔したのですが、日本で当たり前にあるものが、新鮮に感じられました。スピリチュアルな街だそうですが、そのせいでしょうか。因みに一度ボルダーを訪れた人は、もう一度訪れることになる、といういわれがあるそうです。

大きな缶ジュース

８月９日　水曜日

ジョアンさんのサマーキャンプを終えて、６時頃帰宅すると、デリバリーサービスをとるというので、steamed vegetable を頼みました。ブロッコリー、にんじん、たけのこ、セロリ、マッシュルーム、ズッキーニ、さやえんどうを蒸したものに塩、こしょうをふって食べました。時々ごはんも炊くお家です。白いご飯と茶色いご飯があり、ホワイトライスが粒の長いインディカ米、ブラウンライスは玄米、こちらの方がもっちりした感じでおいしかったです。マットは、ゆでた枝豆にスパイスを入れて焼いたもの、スティーブは、カレーを注文しました。ちょっと食べさせてもらいましたが、どちらも辛さが引き立つ夏の味でした。この日は、食事の後に大きなクッキーとブラウニー、チョコレートまで食べてしまいました。胃袋もアメリカサイズになってきたようです。

８月１０日木曜日

帰宅するとリサの手術日だったこともあり、お友達の Bob と娘の Lily,それからお医者さんと看護婦の John 夫妻がお見舞いに来ていました。John 夫妻は、三回日本に来たことあるとのこと。

夕食はチキンと鞘いんげんとそうめんかぼちゃ。そうめんかぼちゃは英語で、spaghetti squash と言うそうです。

８月１１日金曜日

週の終わりの日、さすがに疲れて早めに寝てしまいました。

８月１２日　土曜日

ゆっくり起きて８時半ころから farmer's　market にいきました。マーケットが開かれていた公園の近くにアーリーアメリカンな小屋があり思わず写真に撮りました。そのあと山の方へドライブ。てっぺんから見る景色はまた素晴らしいです。自転車レースがあるらしくレーサーがあちらこちらで練習していました。プロのレーサーだそうです。最後に近所で評判のパン屋さんに寄りました。大きなパン工場の一角にお店があります。小さめのお店なのでお客があふれてまさに行列のできるお店。どれがおいしいかわからないので、きれいな渦巻き模様の丸くて大きな茶色いパンをかいました。昼食にクリームチーズをのせて食べたらおいしい！コーヒーのような苦味もあり酸味もある食べたことのない味でした。pumper nickel という名前だそうです。お店のパンがとにかく大きい。大人の顔より大きい。

ファーマーズマーケットで買ったフランスパンを持って

Pumper nickel いう名前のパン

午後からは、恐竜の足跡があるという場所へ行ったのですが、コンサートがあるということで立ち入り禁止。明日朝早くもう一度行くことにして帰宅。スーパーで買い物をして４時半頃からワインを飲みながらカレーとサラダを作りました。たまねぎと牛肉を炒めていると料理好きのマットの弟のベンがやってきて、“Smells good！”と。マットが炊飯器で

玄米を炊いてくれました。柔らかくいい感じに炊きあがりカレーにぴったり。骨折して痛みと薬付けで食欲のないリサも香りにつられて、少し食べてみたいと二階から降りてきました。

夜８時でも明るくて土曜日のせいか外で遊んでいる子どもたちもいます。朝早く何だかよくわからない動物の鳴き声が聞こえます。やぎのような鹿のような、でもとてもかぼそい声です。elk（エルク）だそうです。

８月１３日　日曜日

朝９時頃から昨日行けなかった Red Rocks and Dinosaur Ridge に出かけました。恐竜の足跡って大きいものかと思っていたら、大きな鳥の足跡くらいの大きさでした。あちらこちらに化石が見られてとても興味深かったです。この街には恐竜の看板だったり人形だったりがよく見られます。

恐竜の足跡

その後楽しみにしていた動物園へ行きました。日曜日ということもありとても混んでいました。小さな子どもたちは赤や青の手押し車に乗って移動。子どもが二人くらい乗れます。入り口に百獣の王ライオンが三頭いたのですがお昼の暑い時間帯のせいかお昼寝中、以前上野動物園に行った時もお昼寝中でした。ライオンもお疲れ様です。きりん、象、カピバラ、白熊、オカピなど日本でもおなじみの動物と今回初めてアナコンダを見ました。あまりに大きすぎて蛇ではないみたいです。暑さと人混みで早々に帰宅。遅めのランチをとって一休み。３時半頃からスーパーに出かけ夕食の買い物をしました。今日は肉じゃがとサラダ。肉じゃがには日本から持ってきたすき焼きのタレを使いました。ちょっと甘めに仕上がりました。昨日のカレーは Very Good だったのですが、今日の肉じゃがは、小さい声で Good でした。お父さんのスティーブはレタスがあまり好きではなく、レタスなしの野菜をさいの目に切った今日のサラダの方が好きだそうです。玄米ご飯、フランスパン、昨日買ったパンパーニケルなど好きなものを選び好きなドレッシングや塩、こしょうなどで食べました。

水を飲むトラ

ここのお家では、煮る、焼く、蒸すなどした料理に自分の好きなソースをかけて食べるスタイルが多いです。冷蔵庫にはドレッシングがたくさん、自分好みの味にできるのがいいです。お母さんのリサが骨折したこともあり、マットもベンも自分でランチを作ります。この日、マットは、ハムとトマトのサンドイッチ、ベンは、日本のインスタントラーメン、サッポロ一番に卵を入れて食べたとか。

ベンの料理はダイナミック、スクランブルエッグは卵４個。ブラウンハッシュという、じゃがいもをハッシュしたものをお好み焼きのように丸く大きく一枚に焼いて、最後にトルティーヤを３枚焼いて、その中に豆のソース、スクランブルエッグ、ブラウンハッシュを巻いて食べます。さすが、１７歳, 高校生。

ベン(弟)と　マット(兄)

ワインを飲みながら焼きあがるのを待つステイ初日の食事

８月１４日　月曜日

朝７時５０分にスティーブ、リサとお別れして、マット車で集合場所の教会へ。教会の入り口では、先日プリスクールで一緒に過ごした男の子が“Hello!”と。９時２０分頃にデンバー空港に全員集合。タカさんが見送りに来てくれました。デンバー空港でドルを使った最後の買い物をして、飛行機に。行きの１０時間は、そうでもなかったけれど、帰りの１１時間は長かった。映画を４本見ました。

成田に着いたのがアメリカ時間の夜中の１２時。眠いし、蒸し暑いし、人は多いし、デンバーが恋しい。日本時間では、１５日火曜の午後。お盆休みの最終日でバスも満員。ようやく羽田到着。庄内空港行きの飛行機に乗るが早いが、爆睡。あっという間の１時間。

庄内着は、夜９時２０分。

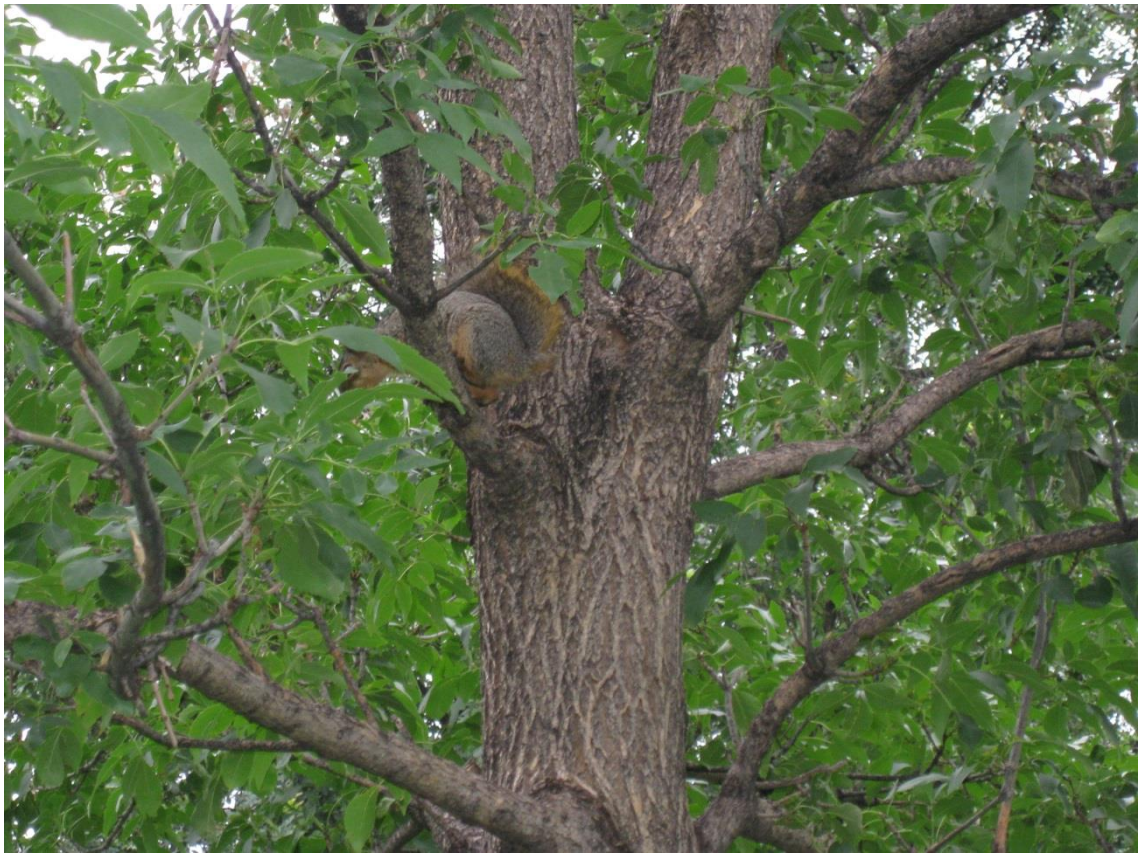
大きなベット

専用バスルーム

終わりに

デンバーは空気が乾燥していて、さわやか、とても過ごしやすい街でした。窓から見える壮大な景色も落ち着いた街並みもツアーでの体験もどれもとても素敵な１２日間でした。さわやかな気候のせいか、心配していた車酔いも腰痛も全て杞憂に終わりました。自分は乗り物に弱い、腰痛があると思い込んでいたのは何だったのでしょうか。別の自分に出会ったようでした。

みなさま、お世話になりました。本当にありがとうございました。



公園で見かけたリス、家の近くには、野生のリス、うさぎ，鹿もいました。

子どもの英語教育を学ぶスタディツアー2017

August 4th,2017 to August 15th, 2017

齋藤　佳

【参加の動機】

申し込み締め切り日ギリギリまで悩み、参加することにした。このような研修ツアーがあることを知っていたが、仕事のことを考えると悩んでしまい決心できなかった。出羽庄内国際村のスタッフの方から「是非、どうぞ！」「面白い内容ですよ」「ギリギリまで考えていいですよ～。」度々連絡を頂き、日に日に行きたい気持ちが増し、思い切って渡航を決心した。

参加の動機は、次の 4 つである。①旅行会社のツアーにはないプログラムであること。ツアータイトル「子どもの教育を学ぶスタディツアー」に魅かれた。私自身英語を教えて 18 年目になるが、何年経っても、もっと楽しく＆効果的に学べる方法はないだろうか？日本でネイティブが人前でスピーチやプレゼンテーションを見る度に、どうして急な要請でも堂々と話せるのか？英語を話せるようになるためのレッスンをするためにはどのようなアプローチがよいのか？ずっと私の疑問だった。どんな所で、何を見ることができるか？何を体験できるか？私自身が体験し、感じてみたかった。②コロラドにいる友だち、以前お世話になった方々に再会できる機会があること。③参加費が手ごろであること。④自分の英語力のブラッシュアップのため。

【滞在記】

Children's Museum, DCIS High School, Boulder 等多種多様の施設を訪問し、また、色々体験した。コロラドにいる友達との再会、以前出羽庄内国際村にお勤めしてたフィルさんとの再会、また、新たにお会いした人たちとの会話。本当に充実した 12 日間だった。その中で私にとっての一番の思い出は、滞在中 3 日間（半日）見学し、学んだ ELS Language Center という語学学校とホームファミリーと過ごした時間である。印象に残っていることを中心にまとめてみたいと思う。

8 月 4 日（金）<u>庄内空港→羽田空港→成田空港→デンバーへ</u>

いよいよ出発の日。鶴岡からデンバーまでのほぼ一日かけての移動。国際村のスタッフ、中高生 5 名参加の「コロラドスタディーツアー」と私たちの「子どもの英語教育を学ぶスタディツアー」計 10 名で庄内空港を出発した。予想通り、荷造りを渡航前日に完了。渡航までホストファミリーに 2 回メールしたが、4 日の朝、天気があまり良くないので、カッパを持参するように連絡があった。コロラド在住のコーディネーター村治さんが今回の成田から一緒に行かれるということで、成田空港で待ち合わせ。村治さんのお陰で【エコノミー・プラス】という広めの席に座ることができた。長い飛行時間をゆったりと過ごせて有難かった。イヤホンが座席ポケットになく、キャビン・アテンダントが配る様子もなく…。雑誌を見たところ、「イヤホンはご自分でお持ちの物をお使

いください」とあった。私は持ってきてなかったので、頼んだが、今後、海外線を利用する時の『持ち物リスト』の一つに加えたほうがよさそうだ。

午後 4 時位にデンバー空港到着。JoAnne が空港に来てくれて、葵衣さんと私は、JoAnne の車に乗って市内を回りながら、待ち合わせの教会でホストファミリーと会った。その後は… 後半の『ホストファミリーとの時間』に書きます。

8 月 7 日（月）9 日（水）11 日（金） ELS Language Center

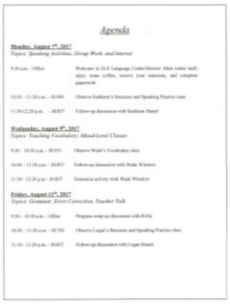
ELS Language Center について

ELS Language Centers
In Denver, Colorado
Welcomes

Saito, Kei
For the Colorado ESL Study Tour

August 7th, 2017 to August 11th, 2017

Instructors: Wade Winslow, Kathleen Hamel, Logan Bunch



Agenda

滞在中、ELS は私にとって一番の学びの場となった。3 名の先生のそれぞれのレッスンを見学し、その後、各先生と教授法や指導に関しての考え、アメリカと日本での英語の学び方の違いなどを話し合った。この学校は、この学校を経て大学に進む人もいれば、語学研修で学びに来ている人様々だった。英語を第二言語（外国語）として学習するクラスを ESL（English as a Second Language）という。これに対して、英語を外国語として学習するクラスを EFL（English as a Foreign Language）という。ESL、EFL はともに英語を母語としない人向けの英語コースのことで、前者は移民など英語圏に住んでいる人が英語を「第 2 の母語」にするためのものであり、コミュニケーション重視、実用的な学び方、後者は留学生などが英語を「外国語」として学ぶためのもので、学問的、教養としての学び方と言われている。

今回訪問した教育機関は、初級（101）～マスター(112)までの 12 レベルがあり、月～金まで週 30 レッスン。1 クラスの定員は 15 名程度。学習プログラムには、①アカデミック英語プログラム ②一般英語プログラムがある。

アカデミック英語プログラムは、650 校を超える ESL のパートナー校への条件付き入学を希望する学生を含め、海外のカレッジや大学に進学のために英語を学ぶことが目標であれば、アカデミック英語（EAP）集中プログラムのアカデミックな環境で目標現実に向けて準備することができる。午前中は文法とスピーキングの練習、言語研究、ボキャブラリー強化（レベル 101～109）、スキル強化（マスターレベル）やランゲージ・テクノロジー・センター（LTC）でのレッスンを受け、午後はリーディングとライティングを学ぶ。EAP の英語プログラムのレベル 112 を終了すると 650 校以上のカレッジや大学進学に必要とされる英語力に到達したことを証明する修了証書が授与される。多くの 2 年生カレッジでは、レベル 109 での入学を認めている。

一般英語プログラムでは正確で効率的なコミュニケーション力が身に付く。ESL の一般英語プログラムでは、英語を話す環境でスムーズにコミュニケーションをとるためのスキルを磨き、午前中は文法とスピーキングの練習、言語研究、ボキャブラリー強化

（マスターレベルではスキル強化）、ランゲージ・テクノロジー・センター（LTC）でのレッスンを通じて英語の基礎を学べる。午後はスキルの強化に重心を置いて学ぶことができる。

レッスンを見学して

訪問初日、Center Director の Ms. Johnson が温かく迎えて下さり、レッスン見学前にそれぞれ自己紹介して、どんなことを見たいか、知りたいか等について話した。その後、学校について、見学する 3 名の先生たちとクラスやレッスン内容について説明があった。夏休みということで、少人数クラスだったが、どのクラスもいろんな国からの生徒さんで、年齢は 10 代後半から 60 歳近く。日本人は 3 名いた。どの生徒さんも英語でコミュニケーションを取っていた。見学の印象は、“自由”“リラックス”“話すことを楽しんでいる”ということ。テキストはあるが、ほとんど使用せず、ペアで練習したり、グループで話したり、携帯やタブレットで調べたりしていた。先生たちの教授法や生徒へのアプローチ方法はそれぞれ違うが、3 名の先生は生徒それぞれの個性や特長をよく捉えており、全ての生徒が発言できる機会を上手く与えて、自ら考えさせ答えを導き出していた。世界各国からの生徒で構成されているクラスなので、それぞれのバックグラウンドが違う。このような学校だけに、先生たちも各国の国民性、学習背景、得意分野と苦手分野、学習への取り組み姿勢を考えて接していると感じた。

ENGLISH FOR ACADEMIC PURPOSES PROGRAM
SAMPLE CLASS SCHEDULE

	BEGINNER (101 – 103)	INTERMEDIATE (104 – 106)	ADVANCED (107 – 109)	MASTERS (110 – 112)
8:30 – 9:20	Structure and Speaking Practice	Structure and Speaking Practice	Language Technology Center	Skills Enhancement Class*
9:30 – 10:20	Structure and Speaking Practice	Structure and Speaking Practice	Vocabulary Enrichment	Language Technology Center
10:30 – 11:20	Language Technology Center	Vocabulary Enrichment	Structure and Speaking Practice	Language Studies
11:30 – 12:20	Vocabulary Enrichment	Language Technology Center	Structure and Speaking Practice	Language Studies
12:20 – 1:30	LUNCH	LUNCH	LUNCH	LUNCH
1:30 – 2:30	Reading and Writing	Reading and Writing	Reading and Writing	Reading and Writing
2:40 – 3:45	Reading and Writing	Reading and Writing	Reading and Writing	Reading and Writing

左：タイムテーブル例
（時間割）

～Kathleen’s class～

生徒 4 名（中国・ラオス）レベル 107-109（advanced）Structure and Speaking Practice の授業。このレッスンでの注目点は①スピーキングアクティビテイ②グループワーク③興味づけだった。文法内容は不定詞・動名詞の学習で、全体での Q&A、ペアワークやグループワークの多いレッスンだった。単語やターゲットとなる文型をどのように使えばよいのかを色んな課題を与え何度も使わせて学習するというスタイルで、“英語を使って覚えていく”という様子だった。先生は、生徒の会話に常に耳を傾け、必要であれば正しい使い方を教えていた。レッスン後の話し合いでは、レッスン中に飽きさせない様々なアクティビテイを準備したり、生徒に自信を持たせる・挑戦する気持ちを持たせるということを大切にしているということだった。

～Wade’s class～

生徒 13 名（日本・コロンビア・台湾・ラオス・サウジアラビア）レベル 107-112+（advanced - Masters）Vocabulary の授業。生徒のレベルが混在し、国際色豊富なクラス。このレッスンでの注目点は①単語の教え方②レベルが違う生徒のクラスでの教え方だった。レベルの高い生徒さんたちは語彙数も多く、英語を話すことに対して自信を持っていて、レッスン中の発言は明らかに多かった。レッスンテーマは“How to start a business?”。

この先生は、生徒から言葉を導き出すことがとても上手く、新出単語は言い換えや最初の文字を与えて言葉を導き出し、一つの言葉に関連ある語も加えて導入していた。語句の導入が終わると、テーマを基にその言葉を使って仕事を始めるために何が必要かをグループワークで話し合って決め、最後にグループの代表が発表するという内容だった。レッスン後の話では、レッスンの組み立て方や進め方、自分が教師として学んだこと、そして心がけていることを話してくれた。実際の生活であり得る状況を与え英語を使わせるという実用的な教授法に共感が持てた。教師としてずっと心がけていることは、“Teachers speak a little, students speak a lot”　“Not teach a book, teach people” 簡単に聞こえるが、奥が深いと思った。ちなみに単語を覚えて使えるようになるまでに 20 回以上の練習が必要だと言っていた。

右：レッスン風景
左：レッスン後の follow-up

～Logan’s class～

生徒 8 名（日本・台湾他）レベル 104-106（intermediate）Structure and Speaking Practice の授業。一番年齢層が高いクラスだった。レッスンでの注目点は①間違いの訂正②先生の話の 2 点。この先生は、事前にレッスン時間内の内容と時間配分を計画して授業を行っていた。復習のゲーム（Charades と呼ばれるジェスチャーゲームのようなもの）でレッスンが始まり、単語を引出し、その単語で英文を作っていくと言う内容だった。生徒の文法的な間違いは、指摘はするができるだけ生徒自身が自ら間違いに気付き、正確な文が言えるように導いている様子が印象深かった。その後は、プロジェクターと生徒それぞれの携帯を使って【Kahoot!】というアプリを使っての授業だった。OA 機器装置のある教室で、今の時代らしい楽しいアプローチ方法だと思った。ペアを作り、ゲーム感覚で学んでいた。その後は具体的な場面を与え、どのように話せばいいかを展開していった。レッスン後の話では、学習した場面を振り返りながら、PC からの色々な学習サイトを紹介してくれた。この先生もまた、生徒に“英語を話させる”“英語を使って覚えさせる”という点が素晴らしかった。正確さより流暢さを大切にしているコミュニケーション重視のレッスンだった。間違いは、すぐに答えを与えるのではなく、ヒントを与えながら生徒から正解を導きさせるようにしていると話していた。具体的には、英文を作る時は、単語数をカウントするという方法を教えてくれた。

～Program wrap-up discussion with Kirby～

最終日のレッスン見学前、Academic Director の Ms. Stain と 3 回のレッスンを見学して感想を話しながら総まとめをした。教授法だけなく、生徒に対する態度や今後どのようにしていきたいかについて話し合った。教育機関、対象となる生徒等、ELS と私の教える状況も環境も違うが、参考となる点が多々あった。今回 3 名の先生のレッスンを参観し、私の教え方、生徒に対する接し方を改めて振り返ることができた。話し合いの場では、私の場合は日本の現場でどのように教えるべきか、どう接していけばよいのか考えさせられた。私なりにアレンジしてレッスンに生かしたいと思う。

8 月 4 日（金）～14 日(月)　【ホストファミリーとの時間】

＜私のホストファミリー＞
Zach　ホストファーザー
Suzie　ホストマザー
Frances　この夏から高校生の娘
Jack　鶴岡に 2 度来ている高校生。バイトで不在
Lucy 犬、Hardy 犬、猫

4 日夕方にホストファミリーの Suzie と Frances と会い、そのまま一時間半くらい車で Winter Park Resort へ移動した。彼女たち会うのは約 3 年半振りだった。お互いに以前に会ったことを覚えていたので、数十年振りのホームステイだったが、不安は少しもなかった。Zach は、フィラデルフィアに単身赴任中。週末や長期休暇はデンバーに戻り、家族と過ごすという生活が数年続いているそうだ。Suzie は会計士の仕事をしている。長男の Jack は、バイト中で山に 1 ヶ月テント暮らし。Frances は、この秋から

高校生になるので、私の滞在期間の 1 週間は、新学校生活のために午前中は学校に通っていた。犬が 2 頭と猫 1 匹の家族。ホームステイの良さは、現地の生活を近くで見れて、体験することができる、英語を話す時間が多い、分からないことがあれば教えてくれる等様々だ。滞在中は Suzie と仕事の話、アメリカ＆日本の政治、子育て事情、最近の国の様子など色々話した。学生の Frances は、スポーツが好きな活発な女の子で、午前は学校に行き、夕方からはサッカーやフットボールの練習。時間があれば両親で、不可能であれば Zach か Suzie どちらかが車で送迎をしていて、10 代の子供を抱える家庭は、日本とあまり変わりのない忙しい生活をしていると感じた。家は古いと言っていたが、外国っぽいインテリアがセンス良く飾ってある家だった。

ホストファミリーと

ペット達左：Lucy 中 Hardy
右…(Sorry, forgot her name)

左は家の正面
右は家を買ったときに前のオーナーが残してくれた家の写真

家の前の大きな木
Frances's swing made by Zach
（手作りブランコ）Frances が小さい時に、遊び用で作ったもの。最近は、近所の小さい子が乗りに来ることもあるそうだ。

Frances の部屋の入口のボード
10 代の女の子らしい
友だちがお泊りに来ると
描いていくらしい。

デンバー到着 1&2 日目！
Winter Park

コロラド到着後、Winter Park Resort へ移動。前回は不在だったので、初めて Zach と会った。コンドミニアムに 2 部屋持っていて、一部屋与えられた。疲れていたが、いくらか緊張感があるのか気が休まらなく一人でゆっくり寝ることができて有難かった。近くにスキー場があるそうで、冬期間は家族でよく利用しているそうだ。窓の外には水の入った容器が取り付けられてあって、野生のハミングバードがやってきた。本で見た通り、本当に小さい可愛らしい鳥だった。この日は夕食の準備中、食事時は Zach とよく話をした。Jack は、日本のニュースをよく聞いているようで、様々なことを質問してきた。私の仕事や家族、鶴岡市の概要、天皇制、政治、そしてアメリカのトランプ大統領の話…。絶えることのない質問の嵐で、半ば冷や汗ものだったが、とても有意義な時間だった。「明日、何したい？」と話になり、午前は遅めに起きて、午後から乗馬に

宿泊したコンドミニアム。室内はとても広く台所、浴室完備。

5 日（土）の朝は、かなり寒かった。遅めに起きて、日本では信じられない大きいホットケーキミックスの袋！バナナパンケーキを食べて、乗馬をやる Grand Lake へ移動した。乗馬は初めての体験でドキドキだった。受付で経験歴を聞かれ、馬とのマッチング。馬への指示の出し方を聞き、15 人位のグループで出発した。私の乗った馬の名前は、Mandy。茶毛の小柄な馬だった。初めは順調に乗っていたのだが、途中お腹がすいたのか立ち止まって草を食べ始めることが度々あった。私の後ろにいた乗馬経験豊富な Frances が“Pull her and kick her!”と何度も声をかけてくれた。森林の中を 1 時間くらい。インストラクターが先頭で、色々な説明をしながら森の中を抜け、浅い川の中もどんどん進んでいった。途中で雹が降ってきたが、馬は動じることもなく、インストラクターの指示に従って動くことに感動した。15 人位の大きいグループだったが、馬たちがとてもよく訓練されていて、貴重な経験となった。機会があればまたやってみたいと思った。その後は、レストランで遅い昼食。テーブルには無料の落花生があり、食べた殻は床に捨てるというユニークなレストランで食事を楽しんだ。近くでマーケットをやっていて、様々な店をぶらりと楽しんだ。手作り石鹸をお土産に数個購入しコンドミニアムに帰った。結局、2 泊して翌朝ピクニック会場へ向かった。

Grand Lake にて。乗馬の様子。左は食べた落花生の殻は床に落とすレストラン

＜最近の teenagers'事情＞

学校から帰ってきた Frances に何を勉強してきたの？と話した。「…数学と自殺の話」との返答。彼女も「変でしょ？」と言っていたが、気になって話を聞いてみたところ、最近 10 代の自殺が増加しており、学校でいろいろ指導しているということだった。Suzie からも「ネット等でのいじめやテレビ番組での友達の中傷が原因で、子どもたちの問題になっている。」ということだった。

左：台所　中：ダイニングルーム:天井には Frances の描いた絵が飾ってある。
右：中庭に抜けるドア。大きなフォークがおもしろい。

左：中庭：天気が良い時は、家族みんないつもここで食事をする。
右：中庭の中の小さい庭。家庭菜園の片隅に、庭の入口のゲートや、ベンチ。おままごと？

＜経済・政治・家庭＞

デンバー市内は、建設中の構築物が多く見られた。居住を求めている移住する人が増加中で家の物価もこの数年でかなり高くなっているとのことだった。2014 年、コロラド州で全米史上で初めて娯楽用マリファナの販売が合法化された。大きなお金が動いている、人口増加ということもあり、景気はかなり良さそうだった。デンバー市内にマリファナ販売店があるそうだが、町の中にそんなに怪しそうな人は見られなかった。

家でも外出してもトランプ大統領の話がでてくる。が、良い話はあまり聞こえてこない。私の滞在中に静養をとっているというニュースが流れ、こんな時に静養している場合ではない！と Zach は怒っていた。

核家族、夫婦共稼ぎがアメリカの家庭。家事は夫婦分担が普通で、お互い協力して生活していた。私のホストファミリーは、Zach が普段不在なので Suzie がほとんどやっている様子だった。滞在中 Zach が夕食を作っていたときがあり、「今日は Suzie が送り迎えとかで忙しいから自分がやっているんだ。」と。フィラデルフィアの仕事場を離

ある日、夕食後、Frances のアイスクリーム屋さんに行こう！という提案で、散歩しながらみんなでアイスクリーム屋さんへ行った。確か夜 10 時は過ぎていたはずだったが、店に着くと長蛇の列。オシャレな可愛いお店で、ついつい食べてしまった。VEGAN メニューもあり驚いた。（Vegan とは、ベジタリアンのうち、肉や魚など肉類に加え、卵や乳・チーズなど動物由来の食品を一切とらない人。）ある夜は、Suzie に「ご近所行きましょ。」と言われ、ビール片手にお向かいのお宅を訪問した。多分夜 10 時頃なのに、にこやかにご夫婦と犬が迎えてくれまたおしゃべり。話していたら、Frances の同級生の息子さんが帰ってきてギターを弾いてくれた。そして、滞在最終日この家族のみなさんとベトナムレストランで食事もした。フレンドリーで楽しく温かい人たちだった。

右:アイスクリーム屋外
中：お店の中の様子
左：メニュー

右：お向かい Katie と
左：Alexa
Amazon が開発した
AI アシスタント
Suzie が書いてくれたメモ

左：夕方になると中庭にリスがやってくる
右：ヒラリー支持のグラス

8 月 6 日（日）JA Picnic at Berkeley Park & Dinner with JoAnne's family

午前 8 時過ぎに Winter Park を出発し、毎年開催されている日系人会のピクニックに参加した。午前 9 時 30 分に公園に集合。庄内風と内陸風の芋煮 200 人分を大鍋各 3 回で作った。中高生たちが積極的に料理をし、配膳もしてくれた。芋煮が出来るまで待っている間、「日本で ALT をしていた。」「羽黒山知っている。」「いつか山形に行ってみたい。」「一緒に写真撮ってほしい。」「鶴岡出身です。」等日本人や日系人だけでなく、ネイティブがひっきりなしに訪れてきた。そこで、以前国際村にいらしたフィルさんに

お会いでき嬉しかった。

左：準備中。訪問者と歓談　中：フィルさんと　右：花笠音頭終了！

カラオケや楽器の演奏、日本太鼓等、メイン会場ではいろいろなイベントが開催されていた。そのイベントの一つで“花笠音頭”を踊った。私は出国前日本で数回 DVD を見ただけで、当日朝の 2 回の練習で本番参加した。「見なくっちゃ！」と公園に駆けつけた JoAnne と Jon に“Good job!!”とは言われたが…。練習不足は明らかなのに、参加したことに褒めてくれる JoAnne たちの言葉にアメリカさを感じた。

ピクニック終了後は、JoAnne&Jon の家に行った。JoAnne とは 10 年以上の付き合い。旦那の Jon と息子の Jon とは 3 年半ぶりの再会。家に到着後、最近の話や家族の話や今回の滞在について話した。息子の Jon は、Vegan だと言っていた。コーヒー&おしゃべり後は「夕食の準備しよう」ということになり、スーパーで買い物。海外のスーパーマーケットは私の好きな場所の一つである。思ったより明るくて、清潔感があり、品揃えも豊富で、整然と並べられていた。オーガニックコーナーが広く、アメリカでも食の安全性は重視されていると感じた。帰宅後はみんなでおしゃべりしながら、ビール飲みながら料理をし、食事は、庭で。話は尽きない…。話が弾むとジョークが出てくる。話している言葉は聞こえても、意味が理解できない。自ら英語のジョークは言えなくても、その時、一緒に笑えるようになりたいと思った。10 時過ぎにホストファミリーが迎えに来てくれて、帰宅。渡米し、ようやく 3 日目の夜にホストファミリー宅に到着した。

スーパーマーケット

8 月 7 日（月）午後　Children's Museum

午後から Children's Museum へ。天気は曇りで気温も上がらず“夏”を感じられない。夏休み中なので、たくさんの親子連れでにぎわっていた。入口でスタッフの方が来てくれ、初めに博物館の中を歩きながら説明してくれた。一言でいうと、日本の【キッザニア】。“Fire Station”（消防署）　” My Market”（市場）“The Teaching Kitchen”（料理教室）“The Art Studio”（お絵かきコーナー）などがある。“Altitude Campsite”（キャンプ）“Bubbles”（シャボン玉）“Energy”（エネルギー）は、日本では見られないブースで興味深かった。また、ユニークな内装や建物にも魅力を感じた。

Entrance
自分たちの写真が上部に映し出される。

上：お絵かき、料理、買い物
中：キャンプ、歯医者、シャボン玉
下：エネルギー、歯型のブロック
　　巨大なシロアリは天井

8 月 8 日（火）午前　DCIS High School Tour　午後　Boulder

中高生グループと一緒に DCIS という高校を訪問した。デンバー・センター・フォー・インターナショナル・スタディーズ（DCIS）は、コロラド州デンバー市にあり、公立の男女共学の中高一貫校である。2006 年に開校した新しい学校で、6 年生から 12 年生まで 750 人あまりが在学している。到着間もなく、この高校に通っている 3〜4 名の生徒が学校を案内して、この学校の特徴を説明してくれた。高校生と感じられない堂々とした態度と話しぶり。初対面の人でも、年齢が異なっても、どうして英語圏の人たちは、人前で堂々と話せるのだろう…？ここでまた感じた。スクールツアー中、日本側から中々質問が出てこなく、村治さんがしばしば「黙っていることが失礼な事なんだよ。何でもいいから聞いて。」と声をかけていた。またこの光景も日本人独特である。最後に、中高生グループが「旅立ちの日に」を合唱。ピアノ伴奏を弾ける生徒もいて、とても良い発表だった。歌い終わった後の DCIS の生徒さんからの拍手！ようやく心が開いてきたのか、帰る頃には親しくなりお互い写真撮影をして交流していた。

校内の掲示

みんなで記念撮影

スクールツアー中

♪旅立ちの日に

DCIS とは…

DCIS は、マグネット・スクールという種類の学校で、魅力的で特色にある教育を行い、学区外からの入学も可能なことが特徴である。DCIS の教育方針として、清廉、高い希望、多様性、共同文化、反映を基本概念に挙げている。また、DCIS のミッションには、急速に変化する世界に関与し、多言語、異文化間で有能な人間を育成することにより、大学進学のための学生を要請することが謳われている。

中学・高校の授業は、英語、数学、科学、社会、演劇、美術、体育、外国語がある。また、特別支援学級も設置されている。特徴的な授業として、8 年生(中学)の社会科ではグローバル・サービス・ラーニング（GSL）の授業があり、各グループが人権について調査し、それを手助けする活動などをし、プレゼンテーションをする。特に、11 年生は、15 枚位の論文の執筆が課されている。外国語の授業は、日本語、中国語、スペイン語、フランス語、イタリア語、ラコタ語（アメリカ先住民部族の一つ）があり、中学から履修できる。

午後からは Boulder 見学。デンバー大学の敷地内で昼食をとり、そのまま Boulder の町の中を歩き回った。Boulder に仏教の寺院があることを初めて知った。Boulder Shambhala Center を見学した。仏教なのには変わりないが、日本にあるお寺とは違う雰囲気だった。中で瞑想をしている人がいた。和尚さんはいないが、日本の座禅みたいな感じだった。その後は、自由行動。買い物をしたり、お茶を飲んだりゆったりと過ごした一日だった。

上左：ボルダ―大学の敷地内　上中＆右：Boulder Shambhala Center

8 月 9 日（水）午後　JoAnne's Summer Camp

Summer Camp は、日本でいうと“学童保育”。長い夏休み親が働いている間子どもたちの面倒を見てくれる場所。有料と無料があるらしい。幼児から小学生が集まる JoAnne の裁縫のキャンプに加わった。何を作ろうと、どう作ろうと全て自由。子どもたちの人気は、枕。ビーズを使ってアクセサリーを作ったり、スカートやヘアバンド等楽しそうに作っていた。好きな布を持ってきて、作りたいものの形に切り、待ち針を使

っているが使い方は本当に分かっているのだろうか？よく見ると、刺繍針を使っていたり、布が足りなければ、付け足したり、本当に想像力豊かだと思った。日本では型紙通りに裁断し、教えられたように作業を進めていく。布と縫い針と糸を与えられ、好きな物作っていいよと言われたら、日本の子どもたちはどう行動するだろうかとふと思った。

子どもたちのそれぞれの名前を、思いつく当て字を筆と墨で書いてあげた。みんな喜んでくれて嬉しかった。書道をしたのは…。記憶がない程数十年振り。その後、殿塚さんがエプロンシアターで「3 匹のこぶた」を日本語で見せた。日本語は分からなかったと思うが、みんなキラキラした目でお話を聞き、楽しんでくれていたようだった。その後は、かくれんぼ。初めてアメリカのかくれんぼに参加した。日本では、オニになりたがる子はほとんどいないのに、やりたい子がたくさん。みんな隠れると、オニが犬(?)オオカミ(?)みたいな声を出し、隠れている子たちはその呼び声に反応する。オニはその声を聴いて隠れている人たちを探す。とても面白かった。

本日の締めくくりは、“Show and Tell”。作ったものをみんなに見せて紹介する。作ったものを見せて、“I made ～.”と発表する。その子なりの話せる内容で発表させる場を与える。「言いたい人だけでいいよ～。」JoAnne は、発言を強制することがなくても、自ら Show and Tell をやろうとする子どもたちは多数。大きな声で話せる子、小さい声で話す子…様々だが、発表する子どもたちにみんな耳を傾け、終わったら拍手する、褒める。微笑ましい光景だった。小さい頃から、このような経験が積み重なり、自己発信力がついていくのかなとふと感じた。

サマーキャンプの様子。

下：「3 匹のこぶた」と久しぶり(?)頑張った書道

8 月 10 日（木）

午前 Nina Bee's Preschool　午後　JoAnne's Youth In Action

Preschool は、保育園・幼稚園の学校。私は 3～5 歳の年齢の混じっているクラスに入った。みんな絵を描いたり、ブロックで遊んだり、本を見ていたりして遊んでいた。お土産に折り紙で風船を作っていった。息を吹き込んで膨らませると驚いたようで、「やって！」と頼んできた。「お家持っていっていい？」「一緒に作りたい」の反応が嬉しかった。先生の絵本の読み聞かせ、途中で音楽の先生が来て手遊び歌やマザーグースを楽しんでいだ。数え歌ではスペイン語に変えて歌ったりもしていた。みんなでおやつを食べ、公園に散歩に出かけた。先生は救急セット（かなり大きめのリュック）を背負っていた。また、あんなに小さい子でも外出に課題がある。先生が「発見リスト」を持っていて、蝶々、クモの巣、花の名前等 10 個程を散歩中見つけるという内容だった。見つけると "I see a butterfly!" "I see a spider web!"の声。私が小学生のレッスンでやっているある場面がふと思い浮かんだ。

午後はJoAnneのYIA（Youth In Action）に合流した。このグループは日本語を学習している中高生で日本に来ているメンバーも多い。夏休み、活動時間帯が早まり何人集まるか…心配したが、たくさんのみんなが来てくれた。日本の中高生たちは、事前にJoAnneと練習していたらしく、多少緊張感もあったと思うが、にこやかな表情も見え、とても楽しそうに交流していた。ペアをつくって、お互いに日本語と英語で自己紹介。日本のゲーム「あっちむいてほい」のルールを説明し、ゲームをやった。その後は、アメリカのゲームで楽しんだ。ここでも「旅立ちの日に」を歌い、DISCの時と同様大きな拍手があった。話そうとすれば、聞こうとする。理解しようとする。会話が続くようにまた話そうとする。英語を話すことって楽しいを感じられたのではないかと思う。英語の学習の継続と共に今後も彼らたちと出会ったことを大切に是非交流を続けていってほしいと思った。

YIA のメンバーとのコミュニケーションを楽しんだ一時

8月11日（金）

午後 DENVER MUSEUM OF NATURE & SCIENCE

3階建ての19種類の展示のあるとても大きな博物館。地元の人、観光客にも人気の場所らしく、駐車場も施設内もとても込み合っていた。アメリカに関しては野生動物・海の生き物・鳥・昆虫やインディアン、そして、恐竜などのブースがある。他に宇宙、鉱物や宝石、健康、オーストラリア、エジプトのミイラやアフリカ等一日では見きれないほど大きかった。今回は限られた時間だったので、3つのブースを見学した。一つ目の野生動物。写真のサイコロパズルがあり、みんなで作った。完成した絵は“ミンク”だった。2つ目はインディアンの場所を見学した。あんなにも沢山の部族があるとは知らなかった。それぞれの部族の生活、衣服、居住等とても興味深かった。次回訪れる機会があれば、もっとじっくり見てみたいと思った。

入口の恐竜
サイコロパズル
“ミンク”完成

中：インディアンの
　　生活
右：トーテムポール

Space Studio

最後の週末　12&13 日

12 日 Grounds Well, Denver　Botanic Gardens
夕食は日本のカレー

13 日 Soccer Tournaments, Greek Restaurant
See you, Zach!　Vietnamese Restaurant

左：Denver Botanic Gardens
右：Palo park

金曜の夜「明日、どこに行きたい？」と聞かれ朝まで調べると話し…。最後の週末となった。ネットで調べると、デンバーの今の“観光の旬(?)”はマリファナ…。Suzie とそんなことを話していたら、「市内にたくさんお店があるから行ってみる？」と行くことになった。外観はきれいなおしゃれなカフェ風のお店だった。入口ではパスポートの掲示が必要で、内部の写真撮影は禁止だった。中に入ると、若い綺麗な女性が商品について丁寧に説明してくれた。もちろん、娯楽用で使用する人もいるが、医療用に使う人もいるということだった。麻薬のイメージしかなかったのだが、マッサージオイルやボディーローション、リップクリームやジュース。それにオーガニックのもの…。お店に入れたのは Suzie のお陰。怖さは感じなかったが、1 人で観光来て入れる場所ではないと思った。興味深い場所&話だった。

マリファナの店の外観

その後、家の近くの Denver Botanic Gardens に行った。4 つの種類の庭に分かれており、全部で約 45 種類の庭があった。アメリカっぽい明るい色の花で一杯の庭、モネの絵のハスの池のある庭、サボテン、日本庭園や盆栽もあった。広大な植物園の中のあちらこちらにアメリカの芸術家 Alexander Calder（1898-1976）が造ったユニークな 10 個の彫刻がある。彼は 20 世紀で最も影響力を与えと考えられている彫刻家で、大胆でエネルギッシュな彫刻で有名だそうだ。花や植物は好きであるが、ガーデニングはやらない私だが、彫刻を一つ一つ見づけながら、植物園を散歩しながら楽しんだ。

左：植物園敷地にある家と庭。赤いのは Alexander が造った作品。
中：睡蓮の池。　左：Insect Hotels（虫のホテル）

そんなに忙しいスケジュールの滞在ではなかったのだが、毎日帰宅すると時間がなく日本食を作る機会がなかった。この日はゆったりした一日だったので、夕食は日本から持ってきたカレールーでカレーを作った。材料が揃えば煮込むだけなので簡単。息子の Jack が YIA に入っているので、以前 YIA で食べたことがあるということだった。Suzie とおしゃべり＆ビール飲みながら完成を待ち、みんなでカレーを食べた。みんな喜んで食べてくれた。夕食後は、Zach が後片付け。Frances が彼の片づけを手伝い、Suzie と私はお向かいの Katie の家に行った。初対面にもかかわらずとてもフレンドリーな Katie と旦那さん。仕事で日本人の人と会うこともあるそうだ。かなりの親日家で日本のことに興味津々。2020 年に東京オリンピック行こうか考えてるの…と話していた。ここでも、英会話の練習！今回は本当にリスニング＆スピーキング鍛えられた気がする。

右：Botanic garden の裏で見かけたセレモニー
中：車のコーヒーショップ　左：Palo Park

最終日！Zach が夕方 Philadelphia に行くので準備のため家にいて、私は Frances のサッカートーナメントを見に行った。場所は車で 1 時間半くらいかかるボルダーの Palo Park。曇天続きの毎日だったが、ここでアメリカらしい自然の大きさを感じられた。会場に着くと、大勢の選手たちに驚いた。こんなにサッカーが人気だとは思わなかった。Frances のチームは惜しくも負け、そのまま帰途へ。家の近くで、Zach と待ち合わせて Greek Restaurant で昼食を食べて家に戻った。Zach は夕方電車で空港へ行くとのことだったので、別れる前にお礼の手紙を渡して再会を約束した。みんなで近く

の駅に見送りに行った。乗客がほとんどいないことに驚いた。でも、渋滞で遅れることはないし、空港へ行くのは一番便利だと聞いた。夜は、前日会った Katie 家族と Vietnamese Restaurant で夕食。レストランはとても混んでいて、席に着くまで 1 時時間位もかかった。おしゃべりしながら楽しい食事を楽しんだ。

8 月 14 日（月）日本へ

家を出る前に Suzie と Frances にもお礼の手紙を渡し、空港へ。今回会えなかった Jack にも渡してほしいと手紙を置いてきた。二人でデンバー空港まで送ってくれ、お別れの時…やっぱり寂しい…。空港に今回とてもお世話になった Matt と村治さんも来てくれ最後まで、荷物やチケット等の諸手続きを手伝ってくれた。あっという間の 12 日間。鶴岡戻ったら翌日は仕事！飛行機で少しでも寝ようとしたが、時間帯が日中で強い眠気はなく、うたた寝しかできなかった。眠れそうもなかったので、Harry Potter を 4 作も見ていたらいつの間にか日本に着いていた。

“帰国”
出発ゲートと飛行機

わたしの好きな“Diary Of A Wimpy Kid”と　玄関のデンバーの旗

【さいごに】

コロラドにいる時は普段の生活よりもゆったり時間が流れ、自分の好きな英語にじっくり触れることができ本当に幸せな時間だった。帰国を数日経ち、改めて参加して良かったと思った。訪問先でのたくさんの人との出会い、自分の目で見て、考えて、感じたESL, JoAnne's Sumer Camp, Nina Bee's Preschool。そして、ホストファミリーとの時間。Suzie との出会いは本当に貴重な時間だった。仕事、子育て、子どもたちの進路、会社、政治…。夜 11 時近くになってから、犬の散歩にも出かけた。（片手にはビールを持って…、持たされて…）デンバー空港から出発するまでメールをくれた。帰国後もメールのやり取りをしている。近い将来、家族で日本に行きたいと言っていたので再会できることを楽しみにしている。

今回のメインのテーマ英語教育に関しては、貰った“Penny's Ur's100 Teaching Tips”をじっくり読み直し、できることから仕事に生かしていきたいと思う。小さい生徒たちは「先生、どうして英語話せるの？」と聞く。高校生は「私はどうして英語話せないの？」と聞く。英語でコミュニケーションはとれるが、自分の英語力に満足していない。おそらく“これで満足”もないだろう。私が英語でコミュニケーションをとれるようになったのは、大人になってからである。英語の学習環境は、私の学生時代とは全く異なり良い環境になっていると思う。今後、2020 年に向けて英語教育はどんどん変化していくだろう。すべての人ではなくとも、英語ができて当たり前の時代になっていくと思う。今、英語を学んでいる生徒たちには、いろんな形で“英語の楽しさ”を伝えていきたいと強く思った。“英語はコミュニケーション手段の一つ”。英語が話せることによって、新しい色んな世界が広がっていくと思う。英語は日常的なものでないので、使わないとすぐ忘れてしまう。子どもたちが継続して学んでいけるように、また、まだ学習を始めていない子どもたちには“やってみたい”の気持ちを引き出せるように、様々な形で子どもたちの背中を押してあげたいと思う。同時に、自分の考えを持つこと。それを自分の言葉で伝えることの大切さも伝えていきたい。今回、私自身実感した。ホストファミリーデーで、「何したい？」と聞かれてすぐ返答できなかった。日本のことを話していて、説明すべき知識が足りなかった。（今回初めてではないが…）アメリカの人は、相手の意見を聞き尊重してくれる。知識がなければ話す内容がない、自分の意思がなければ言葉も出てこない。日本に興味を持っている外国人は多数いるし、地方の鶴岡にも多くの観光客が来ている。日本のことをもっと深く知り、それを発信できるようになりたいと思った。次回行くときは…、少しでも多くの情報を調べて、新しいことに挑戦したいとと思う。

最後になりましたが、今回一番お世話になった幸さん、本当にありがとうございました。簡単で申し訳ございませんが、改めてお礼申し上げます。これからもこのプログラ

参　加　者

名　　前	所　属　等
八渡　葵衣	鶴岡南高等学校２年
齋藤　佳	ＥＣＣジュニア大山教室、（株）元青果
殿塚　由美	ＥＣＣジュニア美原町教室

ホストファミリー

名　　前（滞在者）	地　域
Stephen Wilson　（八渡葵衣）	デンバー
Ben Cornish　（八渡葵衣）	デンバー
Zach Street　（齋藤佳）	デンバー
Steve Manning　（殿塚由美）	ゴールデン
Alejandra Stiros（佐藤幸）	ブルームフィールド

関　係　者

名　　前	所　属　等
ジョアン　リッツ	コロラド　現地コーディネーター　YIA 代表
佐藤　幸	（公財）出羽庄内国際交流財団

研修機関

Front Range Community Collage

住所： 3645 West 112th Avenue　Westminster, Colorado

https://frontrangecareers.silkroad.com/

おわりに

英語教育を学ぶコロラドスタディツアーは、今年で４回目を迎えました。今回はコロラドで日本文化を学んでいるグループ「ユース・イン・アクション」の代表、ジョアン　リッツ氏に現地でのメインコーディネーターを務めていただきました。言語教育の先端をいくアメリカで、専門の講師から直接指導法やコツを学ぶなど、新しいプログラムを盛り込んだ大変充実したツアーとなりました。

今回も公立の中高一貫校（Denver Center for International Studies）を訪問し、国際感覚を養うための様々な教育の工夫を見ることができました。自分の考えを堂々と発言す

るアメリカの高校生の姿は、参加者の皆さんにとっても印象深かったようです。

参加者は全泊ホームステイでの各家庭の皆さんには大変温かく受け入れていただきました。それぞれの家庭で体験した生活も大変貴重な体験となりました。今後もみなさんとの交流は続いていくことと思います。コロラド州ならではの広々とした環境の中、今年も無事にスタディツアーを終えることができました。参加してくださった皆様に改めて感謝申し上げます。

今回も多くの収穫があったツアーとなりました。この経験が参加者皆さんの様々な活動の中でも活かされ、また人と人との交流もますます広まっていくことを願っています。

（公財）出羽庄内国際交流財団　　佐藤　幸